

パラダイム (paradigm) は、15 世紀末初出の単語でラテン語の paradigma を語源としています。一般的には「規範」や「範例」といった意味の単語ですが、科学史家トーマス・クーンが提唱したパラダイム概念 (1962 年) が、その当初の意図からはかけ離れて拡大解釈され、「認識のしかた」や「考え方」、「常識」、「支配的な解釈」、「旧態依然とした考え方」などの意味合いで使われるようになりました。パラダイムシフトはこの過度な拡大解釈に基づいて都合よく用いられてきたため、厳密な定義は特になく「発想の転換」や「見方を変える」、「固定観念を捨てる」、「常識を疑え」などから始まり「斬新なアイディアにより時代が大きく動くこと」まで、さまざまな意味で使われているようです。人類は常に何らかの問題を抱えており、その解決を迫られています。新たに有効な問題解決法が提起されたときに、パラダイムシフトという単語を用いると印象的かつ説得力があるので一般に広まってきたようです (クーン自身は後日パラダイムシフトの定義の曖昧さについての指摘を受けたこと、概念の安易な拡大利用を嫌ったことから、パラダイム概念を放棄し専門母型 (disciplinary matrix) という概念に変更したと成書にありました)。

パラダイムシフトの例として、まず旧パラダイム (例: 天動説) が支配的な時代は、多くの人 (科学者) がその前提の下に問題解決 (研究) を行い、一定の成果を上げるが、その前提では解決できない例外的な問題 (惑星の動きがおかしい) が登場する。このような問題が累積すると、異端とされる考え方の中に問題解決のために有効なものが現れ、解決事例が増えていくことになる。そしてある時期に、新パラダイム (地動説) を抛り所にする人 (科学者) の数が増えて、それを前提にした問題解決 (研究) が多く行われるようになる。以後、以上の動きが繰り返される。

このような意味合いで、内視鏡外科手術の登場も、一つのパラダイムシフトと呼んでもよいと思います。内視鏡外科手術は、すでに本邦でも 20 年余の歴史があり、内視鏡外科手術そのものの有用性に疑義を差し挟む意見はほとんど耳にしくなりました。本号では、「内視鏡外科手術に関するアンケート調査—第 10 回集計結果報告」ならびに原著論文 2 編、症例報告 2 編を掲載しておりますが、いずれも内視鏡外科手術が揺籃期を過ぎ、一般化、主流化を果たしつつあるのを実感しております。次のパラダイムシフトの候補となる手術手技は何でしょうか。NOTES? SPS? Robotic Surgery? それともまだ誰かが考え中でしょうか。パラダイムシフトが起きることは、歴史が証明しています。小生のような凡夫の予想範囲外なのでしょう。歴史書ではおおむね悪役扱いの守旧派だけにはなりたくないと思っています。

(森 俊幸)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第 15 巻 第 5 号) 2010 年 10 月 15 日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1 部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1 部定価 2,940 円 (本体 2,800 円 + 税 5%) となります。

2010 年 年々ぎめ予約購読料: 17,160 円 (税込) (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北野正剛)

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F 一般社団法人学会支援機構内

☎ 03-5981-6011 (Fax 03-5981-6012/E-mail: jses@asas.or.jp) (担当: 佐々木, 小山)

<http://www.asas.or.jp/jses/>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 4F, 5-3-13 Otsuka Bunkyo-ku, Tokyo, 112-0012, Japan

©2010, Printed in Japan

発 売: 株医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 土田, 田村, 安部) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802/E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (有文京メディカル) ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●原著

食道癌に対する根治的放射線化学療法後の胸腔鏡下サルベージ

食道切除術の治療成績 竹村雅至・他 大阪市立総合医療センター消化器外科
当科における腹腔鏡下大腸癌手術クリニカルパスの有用性と

その評価 西村 淳・他 厚生連長岡中央総合病院消化器病センター外科

●症例報告

腹腔鏡下手術にて治療し得た魚骨による左後上縦隔腫瘍の 1 例 菅野元喜・他 杉田玄白記念公立小浜病院外科
腸重積をきたした盲腸子宮内膜症に対する腹腔鏡補助下回盲部切除術の

1 例 栗田亜希・他 厚生連 JA 広島総合病院外科

後腹膜腫瘍 6 例に対する腹腔鏡下手術の経験—腹腔鏡下例および開腹移行の検討— 杉本貴昭・他 兵庫医科大学外科
腹腔鏡補助下にて切除した成人後腹膜奇形腫の 1 例 鈴木和夫・他 兵庫医科大学外科

腹腔鏡が診断・治療に有用であった内膀胱上窩ヘルニアの 1 例 松本 拓・他 三田市民病院外科
腹腔鏡補助下にて切除したリンパ節転移を伴っていた 7 mm の

小腸カルチノイドの 1 例 本間重紀・他 北海道大学消化器外科・一般外科

腹腔鏡下結腸切除術中に偶然発見された無症候性魚骨小腸穿孔

の 1 例 中島紳太郎・他 東京慈恵会医科大学第三病院外科

●私の工夫

多次手術患者に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除術の工夫 角谷慎一・他 富山済生会高岡病院外科

腹腔鏡下手術における臓器圧排用器具の新規開発と臨床応用 土田 忍・他 兵庫県立がんセンター消化器外科

●2010 年 第 15 巻総目次

他に症例報告数編。ただし頁の都合により変更があります。ご諒承下さい。